

平成 21 年 10 月 5 日

各 位

(社) 日本技術士会北海道支部
支部長 齊藤 有司

第 12 回 北東 3 支部技術士交流研修会のご案内

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、(社) 日本技術士会北陸支部、東北支部、北海道支部の 3 支部 (北東 3 支部) では、地域の自然、文化、産業構造が類似している地域に在住する技術士が、地縁技術の掘り起こしとそれらの情報交換を行ない、北東地域の発展に寄与することを目的として平成 10 年度から標記研修会を各支部持ち廻りで開催しております。

つきましては、今年で 12 回目を迎えます「北東 3 支部技術士交流研修会」(CPD 対象) を下記のとおり開催致しますので、ご参加下さいますようご案内申し上げます。

敬 具

記

・テーマ：「変革の時代における地域活性化について」

少子高齢化と人口減少、財政の悪化と経済活力の低下、国民意識の多様化とグローバル化、地球環境問題への取り組みなど、時代環境が変化し、大きな変革期に差しかかっている。この様な中で、近年の東京一極集中による統制を見直し、地方に財源と権限を委譲して地域の特性を活かした発展を主張する地方自治の動きも活発になってきている。不況下における地方財政の厳しい中で、農商工連携による地域活性化、ITを活用した地域活性化など様々な取り組みも行われてきている。

今回は、地域を元気にする取り組み事例の発表などを頂き、様々な分野の技術士がどのように地域活性化に関わっていくべきなのか、その可能性と課題について考えてみる。

・日 時：平成 21 年 11 月 6 日 (金) 13:30～17:30

・場 所：KKRホテル札幌 3階 鳳凰
札幌市中央区北 4 条西 5 丁目 Tel 011-231-6711

・参加者：北東 3 支部会員 (北陸、東北、北海道)

・参加費：支部会員；1 千円、支部会員以外；2 千円

・交流会：17:45～19:15 (参加費 3 千円)

KKRホテル札幌 3階 エルム

・連絡先：〒004-8585 札幌市厚別区厚別中央 1 条 5 丁目 4-1 Docon 新札幌ビル内
(社) 日本技術士会 北海道支部 事務局 (出村)

Tel : 011-801-1617 FAX : 011-801-1618

E-mail : hkd-eng@ipej-hokkaido.jp

以 上

第12回 北東3支部技術士交流研修会

参加申込書

(社) 日本技術士会北海道支部
事務局宛 (Fax : 011-801-1618)

発信者

会社名 _____

氏名 _____

Tel _____

北東3支部技術士交流研修会 参加申込

氏名	会社名	電話番号	研修会 出欠	交流会 出欠

注) 準備の都合もございますので、10月20日(火)までに連絡願います。

KKRホテル札幌へのアクセス



JR 札幌駅 (南口) より徒歩 5分

第12回 北東3支部技術士交流研修会 プログラム

テーマ：「変革の時代における地域活性化について」

司会：森 隆広（北海道支部）

13:30～13:35	開会の挨拶	(社) 日本技術士会 北海道支部長	齊藤 有司
13:35～13:40	来賓挨拶	(社) 日本技術士会 副会長	内村 好
13:40～14:10	各支部近況報告（北陸、東北、北海道）		

【 研 修 発 表 】

14:10～14:40	【北陸支部】「『線引き都市における集落の活性化』 ～都市計画法改正による規制緩和措置の一手法～」 (株) 日本海コンサルタント 屋敷 弘（建設・農業・総合技術監理部門）
14:40～15:10	【北陸支部】「『中山間地域の維持・再生は可能か』 ～震災からの創造的復興、新潟県山古志地域の事例～」 エヌシーイー（株） 小見 直樹（建設・農業・総合技術監理部門）
15:10～15:40	【東北支部】「『東北こんそ』プロジェクトにおける中間支援コンテンツ開発の意義 と課題」 宮城大学地域連携センター 古川 隆（建設・農業部門）
15:40～15:50	《 休 憩 》
15:50～16:20	【東北支部】「『奥州街道筋を点から線へ、そして面へ』 ～特定非営利活動法人 奥州街道会議の取り組み～」 (株) 福山コンサルタント 海野 伸（建設部門）
16:20～16:50	【北海道支部】「インフラからソーシャルキャピタルへ」 ～これからの地域づくりについて～ 共和コンクリート工業(株) 須藤 靖彦（建設・総合技術監理部門）
16:50～17:20	【北海道支部】「『学校へ行こう！』 ～理系教育現場における技術者育成の試行的実施について～」 北電総合設計（株） 樋詰 透（建設部門）

17:20～17:25	閉会の挨拶	(社) 日本技術士会北海道支部副支部長	能登 繁幸
-------------	-------	---------------------	-------

17:45～19:15 【 交 流 会 】

(※上記の内容は、都合により一部変更になることがありますので予めご了承下さい。)

第 12 回北東 3 支部技術士交流研修会

・ テーマ : 「変革の時代における地域活性化について」

少子高齢化と人口減少、財政の悪化と経済活力の低下、国民意識の多様化とグローバル化、地球環境問題への取り組みなど、時代環境が変化し、大きな変革期に差しかかっている。この様な中で、近年の東京一極集中による統制を見直し、地方に財源と権限を委譲して地域の特性を活かした発展を主張する地方自治の動きも活発になってきている。不況下における地方財政の厳しい中で、農商工連携による地域活性化、ITを活用した地域活性化など様々な取り組みも行われてきている。

今回は、地域を元気にする取り組み事例の発表などを頂き、様々な分野の技術士がどのように地域活性化に関わっていくべきなのか、その可能性と課題について考えてみる。

研修発表

1. 【北陸支部】(株) 日本海コンサルタント 屋敷 弘 (やしき ひろし)
(建設・農業・総合技術監理部門)

《 題 目 》

「線引き都市における集落の活性化」～都市計画法改正による規制緩和措置の一手法～

《 発表概要 》

平成 12 年に改正された都市計画法は、都市計画における地方分権の理念を踏まえ、地方公共団体、とりわけ市町村が主体となって、地域の自主性を尊重し、地域特性を活かせる仕組みとなるように抜本的な改正となっている。

線引き制度の見直しや準都市計画区域の新設、特に特定用途制限地域の導入は、市街化調整区域内に存在する集落の土地利用に対して一定の規制緩和措置が適用され、人口の維持、活性化につながる可能性を秘めるものと考えられる。

2. 【北陸支部】エヌシーイー (株) 小見 直樹 (こみ なおき)
(建設・農業・総合技術監理部門)

《 題 目 》

「中山間地域の維持・再生は可能か」～震災からの創造的復興、新潟県山古志地域の事例～

《 発表概要 》

国土の約 7 割を占める中山間地域。食料供給、国土保全、水源かん養、都市住民への保健休養、文化継承など多様な役割を担う一方で、人口減少・高齢化が著しく進展し、集落や多面的機能の維持が困難となってきている。ここでは、平成 16 年の新潟県中越大震災により被害した山古志地域において、中山間地域再生のモデルとなるべく「震災をきっかけに創造的復興に取り組む」実践事例を検証する。

3. 【東北支部】 宮城大学地域連携センター 古川 隆 (ふるかわ たかし)

(建設・農業部門)

《 題 目 》

「東北こんそ」プロジェクトにおける中間支援コンテンツ開発の意義と課題

《 発表概要 》

東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会(以下、「東北こんそ」)は、平成20年度地方の元気再生事業に取組み、過疎・条件不利地域におけるコミュニティ再生事例の検証から多様な主体からなる重層的な支援ネットワーク形成の必要性や中間組織の機能・役割を明確化した。

また、「東北こんそ」事業を通じた新たな人材獲得や成功モデル創出、ビジネス開発等、地域課題解決に寄与する中間支援コンテンツ開発の意義と課題を整理した。

※「東北こんそ」は、東北圏の地域コミュニティの自立及び再構築を目的として大学や企業、行政等様々な主体が連携して、地方の元気再生に取り組むコミュニティ支援ネットワークです。

4. 【東北支部】 (株) 福山コンサルタント 海野 伸 (うんの しん)

(建設部門)

《 題 目 》

「奥州街道筋を点から線へ、そして面へ」～特定非営利活動法人 奥州街道会議の取り組み～

《 発表概要 》

奥州街道は、東京都日本橋から青森県三厩まで続く街道として、人・物の交流等歴史的・経済的に大きな役割を担ってきた。

現在は、多くの街道は表舞台からは外れたが、当時の姿をいまだにとどめている区間や一里塚など数多くの遺産が残存しているなど、道の原点やあり方を問いかける地域の資産として重要な位置づけをなしている。

NPO 奥州街道会議では、これら遺産を活用しての地域との交流・連携を図るとともに、訪れる人々への情報提供等地域活性化への支援をしており、その活動について紹介する。

5. 【北海道支部】 共和コンクリート工業 (株) 須藤 靖彦 (すどう やすひこ)

(建設・総合技術監理部門)

《 題 目 》

「インフラからソーシャルキャピタルへ」～これからの地域づくりについて～

《 発表概要 》

日本の総人口は平成18(2006)年から減少に転じた。北海道ではすでに10年前から減り始め、近年ではそのスピードを加速している。加えて、地方自治体のぜい弱な財政基盤が将来に大きな不安を投げかける。このようなことを背景に、北海道支部リージョナルステート研究会では地域主権分科会を立ち上げ、今後のまちづくりへの勉強会を重ねてきた。

ここでは、人口減や財政難に立ち向かってどのような方策を採るべきか、国の人口や経済の予測データを引用しながらその一部を紹介する。

6. 【北海道支部】北電総合設計（株） 樋詰 透（ひづめ とおる）

（建設部門）

《 題 目 》

「学校へ行こう！」～理系教育現場における技術者育成の試行的実施について～

《 発表概要 》

若手学生の技術離れや意欲の喪失等ととらわれがちな昨今、地域の社会貢献として、青年技術士が理科系教育現場におもむき、技術士としての仕事観や社会的地位を伝え、技術の大切さ、楽しさを実感してもらう活動である。